

海外安全対策情報（2017年1月～3月）

1 社会・治安情勢

1月15日、ウガンダ農水省は、ビクトリア湖（ルテンバ湖岸）とマサカ県で野鳥の大量死に伴う調査を実施し、野鳥から高病原性鳥インフルエンザ陽性反応が出たと発表しました。1月6日付のウガンダ保健省のプレスリリースによれば、ウイルスの型はH5N1型（その後H5N8型と訂正あり）であり、1月8～13日にマサカ県（ブカカタ地域）とカラングラ県にある渡り鳥の飛来地の付近でも渡り鳥等の大量死が起きています。今回の高病原性インフルエンザによる鳥の大量死はウガンダでは初めての事例です。※人への感染は確認されておられません。

2月9日、カンパラ市アカシア・アベニューにあるシティオイル・ガソリンスタンドで、強盗グループと警察官との間で銃撃戦があり、強盗グループの1人が負傷した事件が発生しました。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

（1）盗難・強盗事件

ア 邦人被害事案

○1月、宿泊先ホテルにて、外出中に貴重品が盗まれる事案が2件発生しました。

○1月～3月、住居侵入被害3件、住居侵入未遂被害1件が発生しました。

○2月、レストランにて、鞆の置引被害が2件発生しました。

○3月、乗合バス（マタツ）内での窃盗被害が2件発生しました。

イ 邦人以外

○イバンダ県（Ibanda）

2月11日、同県ではボダ・ボダバイクの盗難事件が増加傾向にあります。過去5年間で72台が盗まれており、35人のボダボダ運転手が殺害されており、今年に入ってから既に4人のボダボダ運転手が殺されています。

（2）殺人事件（報道された主な事件）

○カンパラ市（Kampala）

2月15日、二人の中国人女性が誘拐され、殺害される事件が発生しました。殺人の目的は身代金目的とされています。

3月17日午前9時過ぎ、カウエエシ警察長官補が暗殺されたる事件が発生しました。オートバイに乗った暗殺犯は、カウエエシ警察長官補の乗車した警察車両に向かって発砲した後、近距離から死亡を確認した上で、更に弾丸を

同警察長官補に撃ち込んだと見られています。カウエエシ警察長官補の他、車両を運転していた運転手及び同警察長官補のボディガードも殺害されました。

(3) 強姦事件

邦人が被害に遭ったとの情報には接していませんが、ウガンダにおいては強姦事件が深刻な問題となっています。また、被害者となる女性の大半が未成年者であり、近親相姦が頻繁に発生しています。

○ラカイ県 (Rakai)

同県では昨年1年間で少なくとも306人の女性が強姦被害に遭っています。

○センバブレ県 (Sembabule)

同県では12月～1月の3ヶ月間に、61人の女性が強姦被害に遭っています。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、ウガンダ政府は近隣国ソマリアの治安向上を目的にアフリカ連合ソマリアミッション (AMISOM) に自国軍を派遣し、ソマリア武装テロ組織「アル・シャバーブ」に対する掃討作戦に参加しています。このため、同組織はウガンダへの反発を強めており、しばしば当国を名指しで報復する旨発言していることから、引き続き注意する必要があります。

また、シリアやチュニジアで発生した日本人が殺害されるテロ事件をはじめ、ISIL (イラク・レバントのイスラム国) 等のイスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けた者によるとみられるテロが世界各地で発生しています。したがって、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険があることから、このような情勢を十分に認識して、誘拐・脅迫・テロ等の不測の事態に巻き込まれることがないように、渡航情報及び報道等により最新の治安・テロ情報等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心がけてください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が誘拐・脅迫される事件は発生していません。しかし、ウガンダにおいては人身売買および身代金を目的とした誘拐事件が多数発生しており、邦人が巻き込まれる可能性も否定できないため、滞在中は警戒を怠ることのないよう十分注意してください。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的とされる可能性は低いですが、上記「テロ・爆弾事件発生状況」のとおり、テロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険も排除できませんので、十分注意のうえ安全対策を怠らないよう努めてください。

以上